



野球にかける想い

(株)石毛企画 代表取締役・元プロ野球選手 石毛 宏典 氏

卓話者紹介

東京神田RC 久保田 忠義幹事

千葉県旭市の出身、銚子高校の4学年後輩で、石毛さんは先週誕生日を迎えられ 61 才になりました。銚子高校の野球部は毎回1回戦で敗退しておりました。大学は駒澤大学に進学、卒業後プリンスホテルの社会人野球で2年間、その後、西武ライオンズにドラフト1位で指名され、引退までの14年間で、シーズン優勝が11回、日本シリーズで8回優勝されました。今は所沢と愛媛の野球塾で指導する傍ら講演活動をご活躍です。

野球界では、清宮幸太郎が話題を振りまいています。彼は、大リーグを目指すという噂が飛び交っていましたが、先般カナダで行われた U-18 ワールドカップで、広陵の中村奨成や履正社の安田尚憲など甲子園で活躍した選手と交流する中で考えが変わり、プロ志望を表明したのだと思います。しかし、清宮がプロで活躍できるかどうかは疑問です。むしろ中村や安田の方が体に力がありますし、将来性を感じます。清宮の体はぽっぢやりしていて、あの打ち方ではプロの速い球や切れのある変化球に対応できるか疑問です。しかし、球界では大谷翔平が恐らくアメリカへ行くという中、新しいスターを求めていました。

プロ野球は残り試合もわずかですが、今季は選手の自主性に任せた結果、良い成績を残せなかつたチームが目立ちました。優秀な実績や理論を持った指導者なのに、若い選手にこうすべきだと言い切っていないのだと思います。それでは人間は成長しません。いいものはいい、悪いものは悪いと言い切れる向き合い方が求められます。指導者は、チャンスは与えるけれども、評価は厳格に下し、厳しい決断は選手にその都度丁寧に説明していく作業をする必要があります。

私は 1996 年に引退した後、野球が生まれ育った風土を知りたいと思い、1 年間渡米しました。ちょうど野茂英雄がドジャーズで頑張っているときに、私もドジャーズにお世話になっていました。メジャー、AAA、AA、A、ルーキーリーグという全てのレベルの野球を見るとともに、MLB とは別資本で運営されている独立リーグも見ました。独立リーグでは、日本の若者が体一つ、道具一つでチャレンジしていました。経済的にも言葉の上でも苦労する中、野球を續けたいという真摯な思いで頑張っていました。この思いを日本で受け止められたらと漠然と考え、帰ってきました。

当時はバブルがはじけた頃で、社会人野球の休廃部が続く一方、1993 年には J リーグが始まりました。サッ

カー少年が増えたことは間違ひありませんが、小中高大学の野球人口はそれほど減っていません。プロ野球も 1 リーグ制への移行が見え隠れしていました。その中で、若者が夢にチャレンジするための環境整備が今の日本に必要だと強く思い、独立リーグの指導者をプロ野球 OB のセカンドキャリアにすればどうかと思いました。当時は、プロ野球 OB が借金を苦に自殺したニュースが世間にぎわしていました。同じ時代を生きた仲間から、そういう人間を二度と出したくないという思いがありました。また、われわれが野球を通じて仕込まれた「嘘をつくな」「卑怯なまねはするな」「年寄りや女性に優しくしろ」というモラルが今の社会に必要だとも思いました。

一方、疲弊する地方の現状も耳に入り、野球で地方振興を図りたいという思いもありました。リーグ開設の地に四国を選んだのは、野球王国という素地があったからです。そして 13 年前、日本初の独立リーグ「四国アイランドリーグ」を発足しました。発足 1 年目の後半、当時ガバナーをしていた高知の掛水俊彦氏からニコニコ募金で数百万円の寄付を頂き、エールを頂いたことは忘れません。ちなみに、現在の四国アイランドリーグは約 15 億円の経済効果を生んでいます。

13 年目の今季までに、四国リーグからは累積 55 名、2 年遅れて発足した BC リーグからは累積 25 名がプロ野球に進みました。また、われわれの仲間であるプロ OB も 12 名がこのリーグからプロ野球のスカウトや球団職員、コーチに返り咲きました。

振り返ると、独立リーグの発足は間違ひではなかったと思いますが、時折四国へ行って練習を見ると、生ぬるい練習をしています。腹が立つので、たまに集めて「思いを何も感じない。もっと熱く野球に向かってほしい」と選手や指導者に話を入れています。

世界の情勢は混迷を深める中、日本人の一番の武器は義理・人情・仁義・道理であり、これらを大切にしなければならないと思います。こういう時代だからこそ、日本人の倫理観を世界に発信してほしいのです。また、アナログ的な精神とグローバルな感覚のバランスも必要になります。自分が得意なものを掘り下げることで、将来の子どもたちに何を残すことができるのかという思いを、より一層強くしています。皆様も胸を張って、次世代に自分の原点を伝え、苦言を呈することで、エネルギーッシュに生きていただきたいと思います。

閉会点鐘

牛島 聰会長